

1 情勢報告

津野山地域で鳥獣害対策の集落環境調査を行いました



打ち合わせの様子

10月11日（梶原町松原）、10月15日（津野町北川）に関係各機関が集まり集落環境調査を行いました。

集落環境調査というのは、農地等の利用状況、鳥獣による被害状況柵の設置状況・設置計画、鳥獣の侵入経路等を調査して、マップ化することです。

マップ化することにより目で見て集落の状況が理解でき次の取り組みの基礎資料となります。

今後、振興センターは、関係各機関と情報を共有し連携しながら、鳥獣害対策に取り組んでいきます。

大野見米の販促活動



大野見米の販売

10月21日、中土佐町大野見で第7回おのおのみ新米フェスタが開催され、大野見産米エコ研究会のメンバー7人と一緒に今年の新米をPRしました。

フェスタでは、試食販売に合わせてアンケートを実施し、新米の評価と普段の購入量など消費者の嗜好を調査しました。アンケートは約80人の方に答えてもらい、多くの方から「美味しい」と評価を頂きました。また、昨年を超える550kgの新米を販売することができました。

研究会は、10月26～28日に高知市で開催されるふるさと祭りにも参加し、大野見米の販促活動とPRを行います。

振興センターでは、今後も研究会の活動を支援していきます。



試食とアンケート

J A津野山園芸部のGAP圃場点検



点検シート聞き取り

9月28日、10月4日にJ A津野山園芸部（ナス部会、シシトウ部会、ミョウガ部会）を対象にGAPの圃場点検活動を行いました。

シシトウ部会とミョウガ部会では、GAPのチェックシートによるこれまでの点検活動に加え、今年からナス部会と同様に、農薬保管庫や圃場の点検活動を行うことになり、今回、関係機関が各農家を回りました。

シシトウ部会とミョウガ部会は初めての試みでしたが、概ね適正に管理されており、各農家の取組意識の向上にもつながりました。

振興センターでは、関係機関と連携して、栽培の後半の11月に実施する点検活動を支援し、12月の反省会で年間の取組を検証していきます。

1 情勢報告

芳生野営農生産組合の集落営農活動について



知事への説明

津野町芳生野地区において9月21日、水稻受託、施設・露地野菜、加工品などの集落営農活動を行っている普及の重点課題対象の芳生野営農生産組合が「対話と実行行脚」で、尾崎高知県知事と話し合いの場をもちました。

現地では、組合長から、組合員に兼業農家が多く時間的制約から農作業の手配に苦労していることや、組織としてはまだ歩み始めたばかりであるが資金繰りや事業の償還を考え今後、栽培面積の拡大も考えていくことなど、課題や今後の方向性の説明がありました。また、「ナスのジャム」の加工品も検討している女性組合員の意欲的な考えも出されました。

振興センターでは、今後も組織運営について支援を行っていきます。

キュウリ増収に向けて（JA土佐くろしお管内のキュウリ巡回指導）



戸別巡回指導の様子

JA土佐くろしお管内では、10月上旬を中心としたキュウリの定植がほぼ終了し、今園芸年度のキュウリ栽培がスタートしました。

本園芸年度は、非常に重要となる初期管理を徹底することを目的にJAと振興センターが連携・協力し、9月下旬より週1回の巡回指導を行い、キュウリのさらなる増収を目指しています。

本年は、定植後の天候に恵まれ、全体的に生育は順調ですが、晴天が続いたために、灌水量がやや不足気味の圃場が時折見られました。そのため、生産者との対話では必要な助言を行い、その後の生育は順調となっています。

今後も定期的な巡回を続けるとともに、現地検討会や勉強会を開催し、キュウリの増収に向けて支援していきます。